No.76　　教師と子供が苦しい所

義髙　亙

　今　学校はかつてない課題に直面しています。不登校の子供が増加、学校を精神疾患で休職する教師、最悪と言われる教師のブラック労働環境で働き方改革を迫られています。なぜ子供と教師はこれほどまで苦しんでいるのか。今まで集めたデータをもとに検証してみましょう。不登校の子供と休職する教師に関する文科省のデータです。

　このデータを重ねてみましょう。学校に登校できない子供と苦しんでいる教師が、同じように増加していますね。なぜ増加したのでしょうか。もう一つデータを重ねてみます。これも同様に増加しているものです。

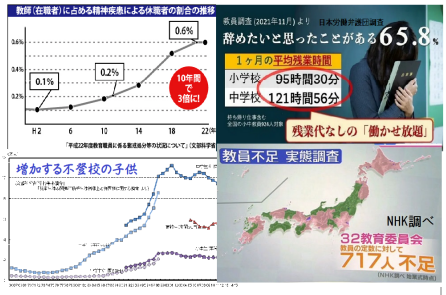
これは授業以外の活動、いわゆる行事活動･委員会活動学年活動などが増加しているグラフです。三つとも同じように増加していますね。ではこれに朝日新聞社が大々的に教員に行ったアンケート結果を隣に置いてみます。授業以外の活動、部活動、保護者対応などが教員を苦しめているのがわかります。「授業以外の活動の増加」が教員を苦しめ、劣悪な労働環境を作り上げていったことがわかります。

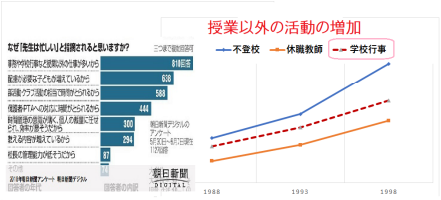
　では生徒が学校に対して不適応になっていったのはなぜでしょうか。

今までまとめてきたデータをもとに考えてみたいと思います。通級学級を担当したとき、毎日の記録をとっていました。 学校不適応状態の子どもの中には行事で忙しい日はスコアを落とし、行事がない日は意欲を持ち直してスコアを上げている状況がある事がわかりました。

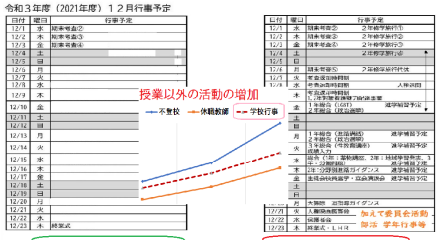
教員もそうかもしれません。行事で忙しい日は授業に集中できませんよね。

　かつて半世紀前まで授業以外の活動はそう多

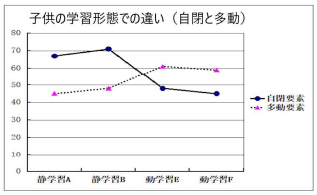




教師が忙しい理由①学校行事など授業以外の仕事が多い
②配慮する子供の増加
③部活動　④保護者対応



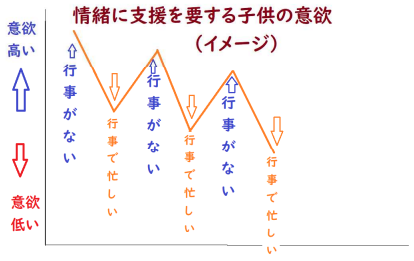
授業以外の活動	少ない	授業以外の活動	増加
教師の休職	少ない	教師の休職	増加
不登校の子供	少ない	不登校の子供	増加
精神疾患	少ない	精神疾患	増加



自閉要素･･･　静学習＞動学習　　動学習はストレスに
多動要素･･･　静学習＜動学習　　静学習はストレスに

くありませんでした。しかし地域行事･交流活動･委員会活動･宿泊学習が増え続け、活動がない日が珍しいほど増えてしまいました。それと同時に休職する教師も不登校になる生徒も増え続け、精神疾患と診断される教師と子供も激増しています。そして教師志望者が減り、学校という組織は働き方改革を迫られています。授業以外の活動をこれほど増やした事が原因の一つではありませんか。

　不登校や集団行動がとれず精神疾患の子供が増えてきた要因は、授業外活動の増加だけではなく、友達関係なども原因になるかもしれません。仮に子どもへの影響という要因を抜きに考えたとしても、職員の働き方改革の観点から、授業外活動の大幅削減は必須であると思われます。



END